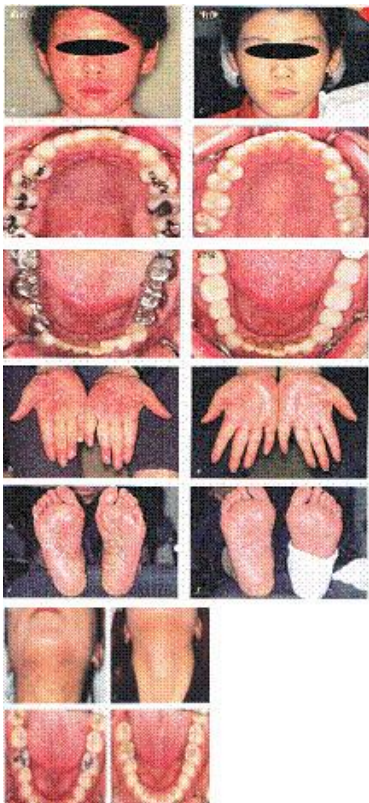


本康歯科ニュース

「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！！



金属アレルギーと歯科治療

近年、歯科治療に使われる金属が原因と考えられるアレルギーや疾患が注目されています。例えば、**アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、湿疹、にきび、口内炎、鼻炎、喘息、過敏症肺炎、腎炎、口腔内の粘膜や舌の疼痛、味覚異常、不定愁訴、鬱、慢性疲労症候群、乾癬、脱毛**があげられます。

検査方法としてはパッチテスト、リンパ球幼若化試験や経口負荷試験などがあります。

原因金属は水銀、ニッケル、スズ、コバルト、クロム、パラジウムなどです。

現在保険で使える金属は上記の金属アレルギーを起こす可能性の高い金属しか認可されていません。アレルギーを起こす可能性の少ない金、プラチナ、オールセラミック等は保険が現在ききません。

全身の健康とお口を守るためには治療はできるだけ体に優しい材料を選ばれることをお勧めします。そして何より詰め物や被せ物のないお口で過ごせるよう定期チェックとプロフェッショナルケアをお勧めします。現在当歯科クリニックでも多数の方が定期ケアに来られています。歯が健康で何でも食べられるひとは健康な方が多いです。将来の自分のためにもケアをおこなっていきましょう。



硬い食品を多く食べている人は、軟らかい食品を多く食べる人よりも**「ウエストが細い」**傾向にあることが、「国立健康・栄養研究所」の調査でわかったそうです。

この調査は、栄養士を目指す全国の女子大生454人を対象に、「過去1ヶ月間でどんな食品をどれくらい食べたか」のアンケートを行い、同時に体のサイズも調べました。そして、そのアンケートを元に、対象の女子大生が1ヶ月間でどれくらい咀嚼筋(※噛むときに使う筋肉)を使ったのかどうか、食べた物の硬さ別で5つのグループに分けました。



かた 硬い食べ物を食べるとウエストが細くなる…!?

その結果、各グループの体格指数にはあまり差がありませんでしたが、「ウエスト」に関しては最も硬い食品を食べていたグループが、最も軟らかい食品を食べていたグループよりも**「平均2.5cm細かった」**そうです。



ませんね。

実は、実験用のネズミでも**「硬いエサを食べ続けたネズミの方が腹部の脂肪が少ない」**といった結果が出ているそうです。

なぜ、このような結果になったのか理由ははっきりわかっていないそうですが、もしかしたら、咀嚼筋を使うこととウエストの細さはとても深い関係があるのかもしれ